

鵜川馨先生記念号によせて

鵜川先生は、本学助手を経て1959年に経済学部講師に就任され、以来1996年3月に退職されるまで、本学ならびに経済学部の発展に力を尽くされました。先生は「一般経済史」および「欧州経済史」の講義を担当され、多数の学生の教育にあたられるとともに、ゼミナールおよび大学院での指導を通して多くの研究者を養成されました。この間経済学部経営学科長、経済学研究科博士課程前期課程主任を各2年、立教大学図書館長を12年にわたって歴任され、大学、学部ならびに研究科の発展のために尽力されました。

先生の研究業績は、著書・論文その他極めて多数にのぼりますが、その研究対象は次の3つに整理できます。第一は、イングランドの封建的土地所有制度に関わるもので、先生は『中世英國世俗領の研究』(1966年)に集約される諸論文によって、土地評価書、領主会計記録などの未公刊資料を分析して、当時宗教領に比べて個別研究が少なかった世俗領の領主直営地の経営の実態を明らかにされました。あわせてイングランドにおける古典莊園制の構造、共同体と封建的土地所有との関連を解明されました。第二は、イングランド中世都市史の研究です。特に古代以来イングランドの重要な都市であるグロスターの中世における展開過程（国王・領主の都市支配から都市が自治を獲得する過程と都市の政治・経済・社会的営みを中心に）を、都市特許状、土地譲渡証書、領主文書、王室財政文書、都市会計記録簿などの多くの手書き文書、印刷文書を駆使して明らかにされました。さらに英国における都市史研究の第一線の秀れた成果を日本に紹介されるとともに、日本における都市史と英国の都市史との比較史的研究により両国の都市史研究の発展に少なからぬ寄与をなされました。第三は上の2つから展開する分野、すなわち家族史、宗教史、歴史補助学（古文書学・地図の歴史など）における研究であります。特に中世農民の家族史の研究は農民経営の実態を明らかにすることで、現在わが国でも活発に行われている社会史研究の先駆となっており、歴史補助学は後進歴史研究者に多大な示唆を与えてくれるものであります。

先生の学会での活躍も注目に値します。1971年に比較都市史研究会の結成を主宰され、20年にわたってその会長を務められたほか、社会経済史学会の評議員・幹事・理事を十数期、英国王立歴史学協会評議員を1971年以来現在にいたるまで歴任され、内外の社会経済史学・都市史学の発展と後進の指導に多大な尽力をなされました。また本学国際学術交流制度などを通じ、多くの外国人研究者を招聘され、国際的な学術交流を進められました。さらに先生は文部省学術審議会専門委員など学術専門家として各方面にわたって活躍されました。先生はこのようにわが国の歴史学界に対して多大な貢献をされ、本学の権威を高められました。立教大学は、先生の学術上、教育上の功績の顕著なことにより、1996年7月、先生に名誉教授の称号を贈りました。

先生はいま定年退職の時期を迎えられましたが、経済学部の発展に尽くしてこられました先生のご功績を永くとどめるために、本号を先生の記念号といたします。先生の今後のご健康とご活躍を祈念すると同時に、これまでと変わらぬご助力を本学と経済学部のために賜りますよう願ってやみません。

1996年10月

経済学部長 服 部 正 治